

女性支援とアースコンシャスをコンセプトに2007年に設立された  
女性オーケストラ [flumus] の記念すべき第1回定期コンサート。  
[flumus]には、ヴァイオリニストやサキソフォン奏者がいます。  
そして「歌」うことから始まります。  
おしゃれや感動はお届けできません

音楽は「歌」。  
オーケストラだって「歌わなければ」音楽の楽しさ忘れない。  
クラシックからオリジナル音楽まで、[flumus]のお届けする  
「やさしいアースコンシャスなオーケストラ・サウンド」をお楽しみください。



レディース・オーケストラ flumus(フルムス)のプロフィール  
「音楽なオーケストラ」を2つのメインコンセプトに、  
トリビュート・サキソフォン奏者

レディース・オーケストラ flumus (フルムス)のプロフィール  
「女性支援」と「アースコンシャスなオーケストラ」を2つのメインコンセプトに、みつとみ俊郎によって2007年に立ち上げられた女性プロ奏者ばかりで構成されているオーケストラです。そのメンバーには、ヴァーカリスト、サキソフォン奏者、リコーダー奏者といった通常のオーケストラには在籍しない楽器奏者も含まれ、クラシック音楽、スタンダード音楽だけでなく、オリジナル音楽まで幅広く演奏するユニークなアンサンブルです。フルムスの最大の特色は、楽譜をすべてオリジナルにアレンジ／制作することです。フルムスは一回一回の演奏のたびに、主催者やクライアント、お客さまのニーズにあわせアレンジを変えています。それがフル編成であっても、4、5人の小さい編成や10人ぐらいのバンド編成であってもすべてフルムスが独自にお客さまのニーズにあわせたアレンジのオリジナル楽譜を作りそれを使って演奏する団体です。レディースオーケストラ＜フルムス＞は、常に、人々の目線にたって、女性と地球にやさしい音楽環境を作ろうとしています。

演奏预定曲

<http://flumus.com>

< flumus オフィシャルサイト >  
<http://flumus.com>



音楽監督・みつとみ俊郎

くみつとみ俊郎オフィシャルサイト <http://www1.land.linkclub.or.jp/~flute/>

1973年青山学院大学仏文科卒業後、1976年にアメリカに留学。南イリノイ大学音楽学部を卒業、ミシガン州立大学音楽学部大学院を卒業して音楽修士号を得る。フルートをドナルド・ベック氏、マルセル・モイーズ氏、作曲法をウィル・ゲイ・バッチ氏、指揮法をロバート・パート氏らにそれぞれ師事する。アメリカでのソロ演奏やミュージカル、オペラでの演奏、ランシング交響楽団のフルート奏者などの演奏活動をへて1983年日本に帰国。帰国後、坂田明、溝口肇、菅野よう子、おおたか静流、星敷豪太などさまざまな分野の一流ミュージシャンたちとノン・ジャンルで演奏活動を展開する。88年にはメジャーデビューCD([STAND BY SATIE]東芝EMI)を全曲サティ作品で制作する。86年にホンダのVPの音楽、長崎ハウステンボスのイベント音楽を依頼されたのをきっかけに本格的な作曲活動を行う。以後、プロミス、ハウス食品、花王、大阪ガス、DHCなど数々のTV・CF音楽、NHK・TVの番組「まちかどドレミ」「ニヤンちゅうワールド放送局」「フランス語講座」などの音楽、NHKラジオ、北日本放送などの放送局ジングル、「湾岸ミッドナイト」「そうかもしれない」などの映画音楽や、「ファイナル・ファンタジー」などのゲーム、アニメ、イベント等の音楽を多数作曲／アレンジする。音楽ライターとして過去に連載を持った雑誌は、「毎日が発見」「ミマン」「ミセス」「FMレコパル」

「ル・クール」「バンド・ジャーナル」「朝日れすか」「暮らしと健康」「ザ・フルート」など多数に及び、中央公論、エル・ジャポン、婦人公論、日本経済新聞など数多くの雑誌、新聞に執筆している。その著作は8冊に及ぶ、「オーケストラの秘密」(NHK出版)、「41歳からのクラシック」(新潮選書)、「こんな音楽があったんだ」(清流出版)、「音楽はなぜ人を幸せにするのか」(新潮選書)「メロディ日本人論」(新潮選書)、「オーケストラとは何か」(新潮選書)、「音楽のジャンルって何だろう」(新潮選書)また、翻訳本として、音楽の友社より刊行の「フルートはいま」(ナンシー・トフ著「現代フルートの歴史」の翻訳)などがある。また、彼の著作は、1993年の聖心女子大学の国語入試問題に使用されて以降、毎年必ず大学、中学、模試などの試験問題などに使用され続けている。2007年レディースオーケストラ[flumus]を設立。音楽監督をつとめている。

会場 杉並公会堂

〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-23-15

\*駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

